

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
131	独立行政法人酒類総合研究所
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Relationship of alcohol intake with inflammatory markers and plasminogen activator inhibitor-1 in well-functioning older adults: the Health, Aging, and Body Composition study. 健常の老齢者におけるアルコール摂取と炎症マーカー、プラスミノゲンアクチベーターインヒビター1の関連性、健康、年齢、体組成の研究	
<b>執筆者</b>	
Volpato S, Pahor M, Ferrucci L, Simonsick EM, Guralnik JM, Kritchevsky SB, Fellin R, Harris TB.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Circulation. 2004 Feb 10;109(5):607-12.	
<b>キーワード</b>	
疫学的研究、インターロイキン6、CRP、アルコール	
<b>要旨</b>	
<p>健康を損なう時の急性段階では何らかの応答物質の増加が予測される。アルコールの摂取量と健康の間には U 型の関連性が報告されており、これはアルコールの摂取が急性応答反応物質のレベルを調節しているのではないかと推測される。本研究では一週間のアルコールの摂取量とインターロイキン6(IL-6)、C-reactive protein (CRP)、腫瘍壊死因子<math>\alpha</math>(TNF-<math>\alpha</math>)、プラスミノゲンアクチベーターインヒビター1(PAI-1)の間の関連性を調査した。テネシー州のメンフィスとペンシルバニア州のピッツバーグに住む70-79歳の健康男女3075人で健康、年齢、体組成について検討した。完全データでは2574人で行った。年齢、人種、喫煙状態、糖尿病歴、心疾患病歴、生活運動強度、高密度リポ蛋白質コレステロール(HDL)、抗炎症性治療、statin (コレステロール合成阻害剤)、全脂肪量、アルコール摂取量などを統計的に調整すると、平均IL-6とCRPレベルの間でJ型の関連性が観察された。この関連性は男女とも一致していた。一週間に1-7杯飲酒する人に比べ全く飲酒しない人は、IL-6とCRPレベルが両方とも高レベルの傾向になっており、一週間に8杯以上摂取する人でも高レベルであった。アルコールの摂取量とTNF-<math>\alpha</math>、PAI-1レベルの間に関連性はなかった。以上の結果から、健常の老齢者で適度な飲酒はIL-6やCRPレベルを低下させる効果があることが示唆された。</p> <p>以上の結果は適度なアルコールの摂取と心疾患の間の疫学的な関連性を説明する新たなバイオマーカーが存在することを示している。</p>	